

大学院教育学研究科・教育学部所属学生対象

2026 年度

グローバル・リーダー育成、欧州研修プログラム 募 集 要 項

1. 趣旨

スウェーデンのストックホルム大学教育学部（部局間協定校）と共同で、大学院学生及び学部学生を対象とする研修プログラムを実施します。本年度のプログラムでは「Education for Sustainable Future Societies（予定）」について理解を深めることを目的とし、国際シンポジウム参加（学生各自による発表）、ストックホルム大学教育学部の学生（院生）たちとの意見交換会、現地の教育関連機関（学校等）訪問を予定しています。さらにプログラム期間中、パリ（フランス）にも訪れ、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）と経済協力開発機構（OECD）訪問を予定しています。

（プログラム責任者）

北村友人教授（教育実践・政策学コース・教育内容開発コース）（協定幹事教員）

森田賢治准教授（身体教育学コース）（国際交流委員会国際研修委員長）

2. 期間（予定）※日程はストックホルム大学他関係先と調整中です。訪問機関の事情等により出発までにスケジュールが変更となる可能性があります。

2027 年 2 月中旬 ～下旬頃（9 日間）

3. プログラム日程（予定）※日程変更の可能性あり

1 日目	航空便にて各自パリに移動、ホテルにチェックイン	（パリ泊）
2 日目	現地集合 講演	（パリ泊）
3 日目	現地集合 OECD 訪問、ユネスコ訪問	（パリ泊）
4 日目	航空便にて各自ストックホルムへ移動、ホテルにチェックイン	（ストックホルム泊）
5 日目	ホテル集合 ストックホルム大学にて国際シンポジウムへの参加・発表、ストックホルム大学教育学部の学生との意見交換、現地学生との交流	（ストックホルム泊）
6 日目	ホテル集合 ストックホルム大学にて国際シンポジウムへの参加・発表、ストックホルム大学教育学部の学生との意見交換、現地学生との交流	（ストックホルム泊）
7 日目	ホテル（あるいは指定の場所）集合 現地学校等訪問	（ストックホルム泊）
8 日目	航空便にて各自東京へ移動	（機中泊）
9 日目	日本着	

4. 研修場所

ストックホルム（スウェーデン）、パリ（フランス）

5. 申請資格・条件

- ① 申請時・研修期間を通じて東京大学大学院教育学研究科・教育学部正規課程（博士・修士・学士課程）に在籍する者（研修期間中に休学している者を除く）
- ② 国際交流・国際機関について高い関心を持ち、英語でのコミュニケーション、現地学生との意見交換、国際シンポジウム等参加に十分な意欲のある者
- ③ 参加に要する経費を自己負担できる者
- ④ 全日程に参加が可能な者

6. 費用 ※詳細は別紙 1 を参照

プログラム参加のための経済支援を行うことにより、学生の研究・交流活動の一助とするため、所定の申請・報告手続きを経て支援の決定した者に対し参加費用の一部をプログラムで補助することを予定しています。

なお、補助を受けた場合もプログラム参加には、自己負担額として航空券・宿泊費（15 万円～20 万円程度）、その他費用（食費・交通費、ビザ申請料等）が生じる見込みです。予算や手配の状況および為替その他の状況によっては大きく変わる（増える）可能性も考えられます。

7. 申請書類

※申請書類様式は、東京大学大学院教育学研究科・教育学部 在学生向けウェブサイト

(<https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/international/>) よりダウンロード。

- ① 申請書（所定様式）
- ② 成績評価係数表（所定様式）
- ③ 前年度（前年度の所属が他大学の場合は当該他大学の成績）の成績証明書の写し ※PDF 形式
- ④ 英語等の語学能力試験結果の写し（該当者のみ）
- ⑤ 経済支援希望状況確認書（所定様式）

8. 申請締切・申請方法

6 月 17 日（水）15 時【厳守】

国際交流センター exchange.p@gs.mail.u-tokyo.ac.jp に申請書類①②③④⑤をデータ提出（①⑤はエクセルデータ）

9. 選考方法

一次選考（書類審査）→ 二次選考（面接審査 6 月 26 日（金）、29 日（月）12 時 20 分～14 時（Zoom））
→ 参加者決定（7 月中旬）

10. 事前研修研修（参加必須） ※詳細は別紙 2 を参照

派遣決定後に事前研修を 7 回程度（初回はオンラインにて 7 月下旬から 8 月上旬を予定）行います。

第 1 回はオリエンテーションとシンポジウムでの発表について、第 2 回以降は、発表練習について国際交流センター英文添削担当者による指導、ユネスコ・OECD 訪問に際するグループワークショップ、発表練習（パワーポイント資料を用いて）、報告会等を行います。

11. 終了後の報告等

- ① プログラム終了後 2 週間以内の定められた期日までに研修参加報告書を提出します。
- ② プログラムによる経済支援を希望する者は定められた期日までに報告書類（別紙 1 参照）を提出します。
- ③ 3 月に報告会を予定しています。
- ④ 説明会やアンケート調査への協力等、派遣後に依頼があった場合には可能な限り協力してください。

その他注意事項

- ① 申請後の申請取り下げ及び派遣決定後の辞退は、原則認めません。
- ② 派遣者はプログラムの定める準備・報告を行い、所定の手続きを経ます。
- ③ パスポート・ビザの取得、派遣先国や地域の情報収集を含む渡航準備は、本人の責任により行って下さい。危機管理等について、プログラム参加前に「東京大学海外留学・国際交流情報」ウェブサイト及び『海外渡航危機管理ガイドブック』を熟読して下さい。<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/voyage-prep.html>
- ④ 派遣者は、日本出発日から日本帰国日をカバーする「付帯海学」（公益財団法人日本国際教育支援協会の学研災付帯海外留学保険）に加入必須となります。加入にあたっての詳細は国際交流センターより派遣者に追って説明します。（各自加入手続き、加入に要する経費は自己負担）。
- ⑤ 申請資格・条件を満たしていないと判明した場合、その他派遣が適当でないと認められた場合は、派遣決定後であっても派遣を取り消すことがあります。
- ⑥ 派遣先機関が所在する国（地域）の治安や公衆衛生の状況の悪化などが認められる場合（日本国外務省が発出する「危険情報」が「レベル 2：不要不急の渡航は止めてください。」以上、「感染症危険情報」が「レベル 4：退避してください。渡航は止めてください。（退避勧告）」に指定された場合等）は、学内選考を通過した場合でも、留学の中止や延期、帰国を命じることがあることに留意してください。

2026 年 6 月 5 日

- ⑦ 障害等のある者は派遣上特別な配慮を必要とすることがあるので、これを希望する場合は申請時に国際交流センターに申し出て下さい。
- ⑧ 授業・教育実習等カリキュラム上の理由で二次選考の設定時間に参加が難しい場合は、選考時間の変更可否を検討するため、申請時に国際交流センターに申し出て下さい。教育実習については加えて、具体的な日程が判明次第速やかにご相談下さい。
- ⑨ パリ、ストックホルムで滞在の際のホテルは候補のホテルの中より各自で予約して下さい。
参加決定後の定められた期限までに滞在先をプログラムへ報告して下さい。
- ⑩ 航空便・ホテルを手配する際、キャンセルや変更が可能な便・プランを予約する、あるいはキャンセル時に補償される保険に加入することを強く推奨します。キャンセルや変更に伴う費用が発生した場合は原則としてプログラムからは補填されません。

問合せ・申請先

大学院教育学研究科・教育学部 国際交流センター exchange.p@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

別紙 1 :

● プログラムによる経済支援について

1 人あたり 230,000 円を限度に「東京大学大学院教育学研究科・教育学部 海外研修支援制度」によって経済支援を行う。目的、申請資格、申請手続き・支援の決定・支給方法・報告書の提出については、「東京大学大学院教育学研究科・教育学部海外研修支援制度実施要項」（東京大学大学院教育学研究科・教育学部 在学生向けウェブサイト <https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/international/>）参照。プログラム全日程に参加し、所定の申請・報告手続きを経て支援の決定した者を対象とする。

<その他注意事項>

- ・現地集合とし、日当、国内交通費の本人支給は無い。
- ・各自が手配する航空券・現地宿泊費の合計金額が支援額の上限に満たない場合は、実費を支援対象とする。
- ・支援額の一部には、日本学生支援機構海外留学支援制度奨学金（渡航支援金を含む）が充てられる（※別添 1 参照）。上記の上限額 23 万円は同奨学金と研究科からの経済支援の合計の上限である。同奨学金の申請資格・要件を満たす方には、原則として申請頂く。
- ・航空便の東京・訪問地往復以外の経路、プログラム日程前後の滞在日数の追加、及びプログラム日程に沿わないものは認めない。
- ・乗り継ぎ以外の目的での経由地での滞在は不可。
- ・自己都合（体調不良を含む）による航空券・宿泊のキャンセル・変更に伴う費用は自己負担とする。
- ・「SPRING GX プログラム」等外部資金との合算を妨げない（本派遣プログラムの趣旨とあえば研究発表の場として活用することを歓迎する）。併給の可否は各自の責任で確認すること。参加決定後の定められた期限までに、外部資金で支出・旅費申請する内容・金額を本プログラムへも提出すること。

問い合わせ先・申請先

大学院教育学研究科・教育学部 国際交流センター exchange.p@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

別紙 2 :

●事前研修の予定について（日時調整中）

7 月中旬		採用者決定
7 月下旬～8 月初旬	事前研修①	オリエンテーション、発表グループについて UNESCO・OECD・パリでの講演に関する事前課題資料配布
10 月～11 月	事前研修②	グループワークショップ
10 月～11 月	事前研修③	グループワークショップ
11 月	事前研修④	英語発表ワークショップ
11 月末		英語サポートを利用し、スライドのドラフト完成目安
12 月中旬	事前研修⑤	発表練習第 1 回
1 月下旬	事前研修⑥	発表練習第 2 回
1 月下旬	事前研修⑦	危機管理オリエンテーション
研修 1 ヶ月前の指定期日		発表タイトル提出
研修 1 週間前の指定期日		発表スライドデータ提出
2 月中旬～3 月初旬		欧州研修
研修後 2 週間以内の指定期日		報告書提出
3 月		報告会

※スケジュールは変更になる可能性があります。

※全て参加必須です。ただし事前研修・報告会については、授業・教育実習等カリキュラム上の理由で出席が難しい場合は考慮しますので、事前にご相談ください。